



発行所 郵便番号 260-0013
千葉市中央区中央4丁目14番10
千葉日報社
電話 043(222)9211

©2022

1月21日(金)

古着104点新たな持ち主に

プロジェクト」だ。生徒や保護者らから341点を回収し、このうち104点が新しい持ち主の手に渡った。同科の生徒は「新型コロナ禍が落ち着いたら、地域ぐるみで行いたい」と夢を膨らませている。

県立千葉女子高校(千葉市稲毛区)家政科の生徒が、全校生徒から着なくなった洋服を回収し、必要とする生徒や職員に無償で提供する取り組みを行った。SDGs(持続可能な開発目標)を意識した「古着循環プ

千葉女子高で循環プロジェクト



回収された古着を前に、友人と品定めする県立千葉女子高の生徒ら=19日、千葉市稲毛区



同校家政科の全生徒約20人は、クラブ活動として「家庭クラブ」に所属。同クラブは、布を素材に小物類を作る活動をしており、布小物を通じた地域との交流にも力を入れている。しかし、新型コロナの感染拡大に伴い休校や分散登校の意見があり、昨年11月、まず家政科内で古着回収プロジェクトを試みた。

家政科の生徒から115点の洋服を回収。約半数の衣類にもらい手がつくなど好評だった。普通科の生徒からも「普通科も参加したかった。全校でもやってほしい」「まだ着られるけど着ない服があるから誰かに着てもらいたい」などの声が寄せられ、全校に拡大することを決めた。

コロナ後「地域ぐるみ」の夢も

今年1月11日から4日間、昇降口に専用の回収ボックスを設置。同クラブの生徒が描いたポスターを校内に掲示し呼び掛けるなどしたことで、ブラウスやワンピース、靴など計341点が集まった。

配布は19日の放課後と翌20日の昼休みに実施。前回もらい手のつかなかった古着も含めて、所狭しと会議室に並べた。訪れた生徒は「かわいい」「似合う」などと話しながら、友人と互いに服を選びあっていた。今回でもらい手のつかなかった洋服は、発展途上国の子どもへのポリオワクチン時代に代える古着回収団体に寄付する。

友人と一緒に訪れた1年、中山萌さん(16)は「コロナの拡大で外出しての買い物を控えており、冬服が少なかった。ありがた。SDGsについても考えるいい機会になった」と選んだ洋服を手笑顔で話した。

同クラブ会長の3年、宮寄まどかさん(18)は「想定よりも多くの古着が集まった。資源の循環に関わり、SDGsを体感できるいい機会。コロナが落ち着いたら、このプロジェクトを地域ぐるみで行い、また地域交流につながれたら」と話した。

古着104点新たな持ち主に コロナ後「地域ぐるみ」の夢も 千葉女子高で循環プロジェクト【SDGsちば】

千葉県立千葉女子高校（千葉市稲毛区）家政科の生徒が、全校生徒から着なくなった洋服を回収し、必要とする生徒や職員に無償で提供する取り組みを行った。SDGs（持続可能な開発目標）を意識した「古着循環プロジェクト」だ。生徒や保護者らから341点を回収し、このうち104点が新しい持ち主の手に渡った。同科の生徒は「新型コロナ禍が落ち着いたら、地域ぐるみで行いたい」と夢を膨らませている。

同校家政科の全生徒約120人は、クラブ活動として「家庭クラブ」に所属。同クラブは、布を素材に小物類を作る活動をしており、布小物を通じた地域との交流にも力を入れている。

しかし、新型コロナの感染拡大に伴い休校や分散登校となり、全員で長時間集まったの活動が困難に。密を避けながら布を通じた交流についてクラブ員で話し合ったところ、社会的に関心が高まっているSDGsに焦点を当て、校内で古着のリユースを行ってはどうかとの意見があがり、昨年11月、まず家政科内で古着回収プロジェクトを試みた。

家政科の生徒から115点の洋服を回収。約半数の衣類にもらい手が見つくなど好評だった。普通科の生徒からも「普通科も参加したかった。全校でもやってほしい」「まだ着られるけど着ない服があるから誰かに着てもらいたい」などの声が寄せられ、全校に拡大することを決めた。

今年1月11日から4日間、昇降口に専用の回収ボックスを設置。同クラブの生徒が描いたポスターを校内に掲示し呼び掛けるなどしたことで、ブラウスやワンピース、靴など計341点が集まった。

配布は19日の放課後と翌20日の昼休みに実施。前回もらい手のつかなかった古着も含めて、所狭しと会議室に並べた。訪れた生徒は「かわいい」「似合う」と話しながら、友人と互いに服を選びあっていた。今回でもらい手のつかなかった洋服は、発展途上国の子どものポリオワクチン代に代える古着回収団体に寄付する。

友人と一緒に訪れた1年、中山萌さん（16）は「コロナの拡大で外出しての買い物を控えており、冬服が少なかった。ありがたい。SDGsについても考えるいい機会になった」と選んだ洋服を手に笑顔で話した。

同クラブ会長の3年、宮寄まどかさん（18）は「想定よりも多くの古着が集まった。資源の循環に関わり、SDGsを体感できるいい機会。コロナが落ち着いたら、このプロジェクトを地域ぐるみで行い、また地域交流につなげられたら」と話した。



回収された古着を前に、友人と品定めする県立千葉女子高の生徒ら＝19日、千葉市稲毛区

